

特別収蔵展「小百合葉子～劇団たんぽぽとともに～」好評開催中

「劇団たんぽぽ」の創始者である小百合葉子さん。今回の展示は「劇団たんぽぽ」とともに生きた小百合葉子さんの輝かしい業績の一端を数々の資料と思い出の品々で振り返ります。また、画家小百合葉子としての素晴らしい作品を紹介するとともに、「劇団たんぽぽ」のご協力を得て、舞台衣装や小道具、台本など160点余りを展示しています。

小百合葉子さんが現在の浜松市北区滝沢町に生まれたのは、110年前の明治34年(1901年)のことでした。彼女の84年の生涯は児童劇一筋と言えるものでした。「未来をになう少年少女に美しい夢を与えることが私たちのつとめです。」という一念で、北は北海道から、南は沖縄まで、そして障がい者施設や刑務所など日本全国を公演して回り、いろいろな方に生きる力と夢を与え続けてくれました。

でも、劇団「たんぽぽ」を創設し、ここまで育て上げた道のりは決して簡単なものではなかったはず。「踏まれても 雨に叩かれても 土にしっかりと根を張り 葉も土につけて 真中から素直に茎をのぼし 美しい花の咲く たんぽぽ 私達は たんぽぽの花のように 美しく清らかにたくましく咲こう」小百合葉子さんの言葉です。美しい花を咲かせる。まさに「たんぽぽ」の心の持ち主であったからこそなしたものでしょう。小百合葉子さんは藍綬褒章や吉川英治賞、0夫人児童演劇賞等々輝かしくたくさんを受賞をしましたが、その根底には人にはわからない並々ならぬ一途な思いがあったとも思います。そんな彼女の心は絵筆に託されました。演劇人としての小百合葉子はよく知られていますが、今回は画家としての小百合葉子もぜひ見ていただきたく、その作品の一部を展示いたしました。

小百合葉子展にあたり、ここに「劇団たんぽぽ」とともに生きた生涯、そして、数々の愛用品など思い出の品々、「劇団たんぽぽ」の台本、衣装、小道具等で懐かしんでください。

「コロナ君 君が活動自粛しろ 君の舞台の幕を閉じよう」

6月に開催した短歌入門講座を受講した小学6年生の女の子の作品です。講師の村松建彦先生も懇切丁寧にご指導してくれました。彼女の感想には「短歌のことをいろいろ知ることができおもしろかった。自分で短歌を作るのもよかった。」ということが書いてありました。また、こんな短歌も作ってくれました「学活でみんなで決めた作戦は方法一の<いいね>作戦」。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、場所を変えたり、手指の消毒など講座参加者の皆様にはご迷惑をおかけしています。この短歌に詠まれたように、コロナ禍の幕を閉じ、<いいね>といえる日が近いうちに来ることを祈っています。



浜松市民文芸 第65集

好評販売中! 一冊¥500¥

*お求めは浜松文芸館事務室まで